

平成25年度事業報告書

事業の概要

平成25年度は、当該年度事業計画の活動指針に沿って、教育・学術・文化の振興のための各種事業を滞りなく実施するとともに、9月には内閣府に対し一般社団法人移行申請を行い、その結果、申請のとおり平成26年4月1日付をもって本会の一般社団法人への移行が認可された。

また、6月開催の定時社員総会において、任期満了に伴う理事を改選し、新理事を選任するとともに、7月開催の新理事による理事会において、会長、副会長、専務理事及び常務理事を互選し、新しい執行体制を構成した。この新理事及び新執行部は、一般社団法人移行後も引き続きその任に当たることとなる。

計画していた各種事業については、平成10年の授賞制度改正以降、16回目を迎えた平成25年度アカデミア賞表彰事業は、会員から推薦のあった多数の候補者について慎重に選考を重ねた結果、文化、文化・社会及び国際の各部門それぞれに1名の受賞者が得られた。授賞式は、多くの会員の協賛のもとに盛大にかつ好評裡に催され、その模様は、本会HP及び会誌アカデミアNo.144 20014.2に掲載されている。

一方、今年度が第2回となる「平成25年度アカデミア教育研究助成事業」は、作成した応募要項を、会員のほか各都道府県及び政令指定都市の各教育委員会、並びに関係教育機関へ送付するとともに、本会HP及び会誌アカデミアNo.140 2013.6に掲載するなど広く周知を図った結果、個人、グループ、団体のそれぞれ1件、計3件の応募が得られた。応募のあった3件の教育研究について選考委員会において選考を行った結果、個人の教育研究への助成を決定した。贈呈は、アカデミア賞授賞式に合わせ行われた。

一昨年、昨年と2年続きで延期となっている第18回陝西省大学生日本語弁論大会及び第7回日本語教育セミナーの開催については、領土問題に端を発する日中関係悪化の改善が見込まれないとする中国側の要請を受入れ、今年度も中止となった。

講演会等の開催については、例年恒例のアカデミア賞受賞者による記念講演及び沖縄支部主催による地区講演会の他、7月には本会初の公開シンポジウム「東日本大震災後の復興の今を語る」を開催した。シンポジウムでは130名を超える多数の参加者を得て、予定時間を大幅に超過しての活発な討論が取り交わされ、参加者のほとんどのアンケートから来年の開催を望む声が寄せられた。またシンポ終了後の講演者及び参加者を交えた懇親会にも多数の参加があり、盛会かつ好評裡に終了した。なお、シンポジウムの詳細は、会誌アカデミアNo.141 2013.8に掲載されている。

本会事業のうち最も重要な役割を果たしているといつて過言ではない年6回、隔月発行の会誌アカデミアは、昨年に引き続き、本年度も東日本大震災及び福島原発事故を契機とした環境問題に取り組み、多くの関係者の協力を得て、森里海連環特集「パラダイムシフ

トとしての森里海連環—その思想（あるいは理念）と実践」、平成25年度公開シンポジウム「東日本大震災後の復興の今を語る」、「グローバルな視点から自然環境変化と人類の未来を考える」の特集号を滞りなく刊行し、会員各位及び関係機関等に配付した。

これら事業の実施に当たっては、当初に見込んでいた会全体の収入が想定以上に減少したこともあり、予算面で厳しい状況となった。平成26年度も厳しい財政状況が見込まれることから、事業の見直しを含めた一層の経費節減が望まれる。

主な公益事業

1. 教育・学術及び文化の振興のための表彰及び助成

1) 文化・社会及び国際交流に著しく貢献した人材に対するアカデミア賞の授与

平成26年2月14日（金）京都・新都ホテルにおいて、平成25年度アカデミア賞授賞式が挙行政され、次の各氏に対しいアカデミア賞が授与された。

【文化部門】

受賞者：伊東 俊太郎 氏 東京大学名誉教授

受賞理由：中世科学史をはじめとする科学史研究の数々の業績ならびに西欧文明とアラビア文明との比較をはじめ、五大革命説などの比較文明学における数々の業績

【文化・社会部門】

受賞者：田中 克 氏 京都大学名誉教授

受賞理由：森と海の大国日本が世界に発信すべき21世紀型統合学問「森里海連環学」の提唱と、その理念のもとに進める有明海再生ならびに三陸の海の震災復興に関する業績

【国際部門】

受賞者：木山 啓子 氏 特定非営利活動法人ジェン理事・事務局長

受賞理由：特定非営利活動法人ジェン（JEN）事務局長としての活動を通じ、世界の紛争地や災害地における難民・避難民の救済や支援などに尽くした国際的な貢献

2) 我国の初等・中等及び高等教育の振興のためのアカデミア教育研究助成の授与

教育の振興を促進するため、わが国の初等・中等及び高等教育の現場において、日々、教育改善を実践している教員等を支援するための「平成25年度アカデミア教育研究助成」を次の教育研究に決定し、10万円を贈呈した。

【個人研究】

橋口 俊一 氏：宮崎県立都城さくら聴覚支援学校 教諭

教育研究テーマ：高齢聴覚障害者の戦争体験の手話語りを活用した授業展開及び

2. 教育・学術及び文化に関する国際交流の推進

「第18回陝西省大学生日本語弁論大会」及び「第7回日本語教育セミナーin 西安」の開催中止

一昨年度、昨年度と尖閣諸島の領土問題に端を発する日中関係の悪化より延期となっていた「第18回陝西省大学生日本語弁論大会」及び「第7回日本語教育セミナーin 西安」は、昨年10月に本会関係者が中国西安市へ赴き、中国側主催者陝西教育国際交流協会関係者と今後の対応について協議した結果、継続開催を強く希望した中国側の意向に沿って平成25年度開催を計画したが、7月、日中関係の改善が見込まれないため開催中止、来年度へ延期したいとする陝西教育国際交流協会の要望があり、やむなくをそれを受入れ、今年度も中止となった。

3. 教育、学術、文化に関する講演会の開催

1) 本部事業

①2013年公開シンポジウム「東日本大震災後の復興の今を語る」

日 時：平成25年7月20日（土）13時～17時30分

会 場：京都大学文学部第3講義室

I. 基調講演

「森里海連環から東日本大震災復興の今を見る」

田中 克 氏：京都大学名誉教授

(財)国際高等研究所チーフリサーチフェロー

II. パネル討論

【話題提供】

「東電福島原発事故後に現れた生と死の交叉点で」

黒坂 三和子 氏：ジャパンレポート<3.11後の持続可能な未来への道>
プロジェクト

「測定を通して知る放射能汚染の実態」

河野 益近 氏：京都大学大学院工学研究科原子工学専攻 教務職員

「南相馬から日本の近未来をみる - 低線量被ばく、急速進行性の高齢化社会の先にあるもの -」

原澤 慶太郎 氏：南相馬市立総合病院在宅診療科 医師

「東日本から避難された人たちの今とこれからのこと」

西山 祐子 氏：避難者と支援者を結ぶ京都ネットワーク みんなの手代表

「震災後の自然環境を活かした復興について」

畠山 信 氏：NPO 法人 森は海の恋人 副理事長

「行政が進める復興事業と住民が思い描く復興の街」

長峯 純一 氏：関西学院大学総合政策学部教授

気仙沼市震災復興会議委員

Ⅲ. 総合討論

②平成24年度アカデミア賞受賞記念講演

日 時：平成26年2月14日（金）11時～12時30分

会 場：新都ホテル

講 師：伊東 俊太郎 氏 東京大学名誉教授

演 題：「比較文明学と私」

講 師：田中 克 氏 京都大学名誉教授

演 題：「森里海の連環一人と自然を紡ぎ、持続社会を拓くー」

講 師：木山 啓子 氏 特定非営利活動法人ジェン 理事・事務局長

演 題：「極限の中の幸せ～国際支援の現場から～」

2) 支部事業

沖縄支部夏季講演会

日 時：平成25年7月14日（日）

場 所：ホテルロイヤルオリオン「旭の間」

講 師：狩俣 恵一 夫 沖縄国際大学学副学長

演 題：「琉球文化・高平良万歳」

その他の事業

1. 機関誌の発行

『会誌アカデミア』の発行

No.139 2013. 4 特集：森里海連環特集「パラダイムシフトとしての森里海連環
ーその思想（あるいは理念）と実践 Part 1」

No.140 2013. 6 特集：森里海連環特集「パラダイムシフトとしての森里海連環
ーその思想（あるいは理念）と実践 Part 2」

No.141 2013. 8 特集：2013年度公開シンポジウム「東日本大震災後の復興の今
を語る」

No.142 2013.10 特集：「グローバルな視点から自然環境変化と人類の未来を考
える Part 1」

No.143 2013.12 特集：「グローバルな視点から自然環境変化と人類の未来を考
える Part 2」

No.144 2014. 2 特集：「平成25年度アカデミア賞」

2. 役員会等開催

- | | |
|--------------|--------------------------|
| ①第1回理事会・評議員会 | 平成24年 6月15日(13:00~13:50) |
| ②定時社員総会 | 平成24年 6月15日(14:00~15:00) |
| ④第2回理事会 | 平成24年11月 5日(15:00~17:00) |
| ⑤第3回理事会 | 平成25年 3月14日(14:00~16:00) |
| ⑤第4回理事会 | 平成25年 3月29日(14:00~16:00) |